

語り手 大原寿美子さん
(明治40年生まれ)
昭和51年9月22日収録

あらすじ

昔、おじいさんがおばあさんに、ソバがえ餅をもらって、畑へ出かけていった。

昼。昼ままだよつとしたらネズミが来た。

見たら、かわらしいから「おめえにもやろうかなあ」言つて、ソバがえ餅をやるよ、うまそうに食べる。次々にネズミが来るものだから、みなあげて自分のはなくなつてしまった。

おじいさんが家にもどつて「今日、ネズミが来たけえ、やりよつたら自分は食べよつがなかつた。けど、いことをし

ネズミ浄土

(八頭郡智頭町波多)



イラスト・福本隆男

隣の爺が模倣して失敗

たわや」「そりゃいいこ
とをしたと思やあいい
わ」と言つていた。

明くる日、山へまたソ
バがえ餅を持って行つたり、ついていったところ

ところ、今度もネズミが
たぐさん出てきて「昨日
はありがとつごんし
た。今度はネズミの浄土
へ連れて行ってあげるけ
え、わしの尾っぽへさば
って、目えつごつとりん
さい」と言つた。

おじいさんは目をつぶ
れた。それで、また「お
じいさん、尾っぽへさば

とね。目えつごれ」と言つな。「いろいろな宝物を
さらばえて持つていの
ら、またそつしている
と、そのうちもどつたそ
うな。
隣のおじいさんがやつ
て来て、うらやましくな
つてわけを聞き「うらも
してみよう」と言つて帰
り、ソバがえ餅を持って
畑へ行つた。ネズミが出
てきたので「われにもや
るぞ」とソバがえ餅をみ
んなやつたら、そつした
ら、ネズミがネズミ浄土
へ連れて行ってくれた。
一匹のネズミが「わし
らは猫いうもんがごつと
好かんじや。ニャオーい
うことだけは言いなさん
なよ」と言つた。
そつしたところが、欲
ばりじいさんなので、宝
物である。この語では、
がほしくてたまらないか
ら、ついで「ニャオーン」
と猫の鳴き真似をした
ら、ネズミたちがみな逃
げてしまった。そつする
と、真っ暗になって、ネ
ズミも一匹もいないぞう

解説

それぼつちり。

山陰両県で語られる内
容は、主人公もネコの鳴
き真似をしてネズミを脅
かし、米とか餅、あるい

は宝物などを持ち帰り、
それを聞いた隣の爺が模
倣して同様に、ふるまう
が、ネズミに見破られて

失敗するというのが一般
的である。この語では、
それとは違っているが、
こちらのほうがどうやら全
国型のタイプと認めるべ
きものである。

(元鳥取短期大学教授)

(水曜日に掲載)